
第1章

はじめに

学校の抱える今日的課題は大きい。いじめ・不登校といった逃避行動は深く潜航し根強い問題を抱えているし、校内暴力はニュースにのぼることこそ少なくなったが、依然その数は減っているわけではない。

一方、新しい学習指導要領はまた新しい課題を学校に突きつける。新しい教授/学習スタイルが求められ、総合的な学習の時間の学習活動はどうしたらいいのかなど、学校現場の混乱は続いている。

こうした中、学校の情報化への対応は必須のこととなる。政府直轄のバーチャルエージェンシー「教育の情報化」は、かつてない規模で学校の情報化・ネットワーク化を押し進める。これまでインターネット利用の対応にはのんびりと構えていた自治体も多いが、期限を区切られて目標を示されたいま、うかうかはしていられなくなった。おそらく目標である今年度(2001年度)末にはすべての学校がインターネットで結ばれることになるだろう。そして次の目標は2004年度末までの校内LANの完成である。[文部省 2000]すべての教室からネットワークが利用できる日はすぐそこまで迫っている。

「開かれた学校」を目標に掲げる学校が多い。学校の外に向けた情報公開は今後ますます進むものと思われる。しかし、それを支えるのは学校内の情報の共有化である。現在多くの学校の中は必ずしも情報化が進んでいるとは言い難い。「内へ開かれた学校」となるためには、これまで以上に校内の情報を共有化していくためのシステムによるサポートが必要である。

1.1 研究の目的と方法

本研究は，小中高等学校において校内LANの整備が進み，すべての教室でネットワーク利用が可能となった段階を想定している。校内の情報活用を促進し，グループ学習を支援するシステムの構築を目的とする。

学校内での情報共有のために必要な機能要求を検討し，グループ学習で支援すべき視点を整理する。これに基づき学校グループウェアの設計とプロトタイプの開発を行い，実際に学校現場での運用を試行する。

1.2 本論文の構成

第2章では今日的な学習観からグループによる課題解決学習という学習形態への対応の必要性を述べる。さらに，教育の情報化という社会的な変革の波の中で，学校としてのコミュニケーションにグループ活動は欠かすことはできないものであり，これを支援するシステムの必要性を述べる。

第3章では学校の活動に視点を置く。これまでの「学校」コミュニティにネットワークを導入した際の学校像を模索し，学校現場からの要求を整理する。

第4章はこれまでの議論から要求される『学校グループウェア』の機能の詳細について述べる。この要求に基づいて作成したプロトタイプシステム「こあっと」を開発し，その詳細を記述する。

第5章は実装したシステム「こあっと」の評価を行う。学習支援機能に限定した評価では十文字学園女子大学社会情報学部の総合課題演習の授業においてシステムを利用し，システムの機能の評価と，グループウェアの課題解決学習に対する効果の評価を行う。また，小・中学校の現場教師による操作性に対する感想からシステムの改善について議論する。さらに，学校現場に本システムを導入した際の利用状況について東京都台東区立蓬莱中学校での実践から概観する。

第6章は本論文のまとめとして成果と今後の課題について述べるものである。